



管路防災研究所

NEURON Pipeline Resilience Laboratory

NEWS LETTER

Vol.20 2024.1

2024年 年頭所感

日本ニューロン株式会社
管路防災研究所 代表 岩本 泰一

ごあいさつ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
旧年中はいろいろとお導きをいただき、ありがとうございました。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

元旦能登半島地震ではじまった今年、2週間を経ても尚、復旧が遅々として進まない状況をメディアで確認する毎日が続いています。お亡くなりになられた方々にはお悔やみを申し上げますとともに、一日も早い復旧復興を願ってやみません。

続く2日の海上保安庁航空機と日航旅客機の衝突では、5名の自衛隊員がお亡くなりになりました。一方で旅客機の乗員乗客が、規律と節度ある行動で全員無事脱出。この「18分間の軌跡」は今後将来、有事防災の鑑として語り継がれることでしょう。

想うこと、願うこと

当社では毎年5日の初出に「新年の集い」を開催しています。社員全員で代表（私）が掲げた「新年の展望」を共有し、各人は「決意表明」というかたちで自身の想いや誓いを述べます。

今年の干支(えと)は甲辰(きのえ・たつ)。甲はよろいで、よろいをつけた草木の芽が殻を破って頭を少し出した象形文字。人事に適用すると、旧体制が破れて革新の動きが始まることを意味するそうです。他方「辰」は理想に向かって辛抱強く、様々な抵抗や妨害と闘いながら慎重に歩を進めてゆく意味があります。予想や占星術が当たるかどうかは大事なのではなく、考えられる状況にどう対処していくかが重要です。

6日からの連休に当研究所所員が能登半島地震の調査のため、輪島、穴水、七尾地区に入りました。水管橋や浄水場の管路を中心に現場・現物・現実を目の当たりにしたことで、あらためて「管路防災」を標榜している当方がなすべき役割は大きいと強く感じた次第です。

明後日で阪神淡路大震災から29年、当時長田区にあった妻の実家が被害を受け（のちに取り壊し）、救援物資を運ぶためにトラックで駆け付ける道中、無残な街の情景にはらはら涙したことを思い出します。

一方で、当時の神戸市内水管橋に配備されていたペローズ型伸縮可撓管500台超が、1台も漏れ報告無しとの事でした。願わくは、耐震性に優れたペローズ型 極短面間防災継手【MCジョイント】の早期普及により来たるべき今後の大震災に対しライフライン分断を極力回避できますように、当方一丸となって設計・製造・研究開発に一層拍車をかけて参ります。

本書ご高覧のみなさまには、なにとぞよろしく御導きのほど、お願い申し上げます。



〒619-0237
京都府相楽郡精華町光台2-2-5
日本ニューロン株式会社
けいはんなサウスラボ
『管路防災研究所』



お問い合わせ先
info@neuron.ne.jp

環境条件

地盤災害
過酷環境
気候変動

Core技術

Resilientな
伸縮可撓継手
終局限界性能
確認実験技術

管路防災技術

管路系システムの
耐震・性能設計
防災
エンジニアリング